

令和元年度 「魅力ある学校づくり地域協議会」 活動事例集



第5号 令和元年2月

宇都宮市教育委員会 生涯学習課

目 次

◎活動事例集について	1
◎魅力ある学校づくり地域協議会って？	2
◎活動事例	
雀宮中央小学校地域協議会	5
陽東小学校地域協議会	6
豊郷中央小学校地域協議会	7
上河内西小学校地域協議会	8
国本西小学校地域協議会	9
今泉小学校地域協議会	10
上河内中学校地域協議会	11
横川東小学校地域協議会	12
岡本北小学校地域協議会	13
清原中央小学校地域協議会	14
横川中学校地域協議会	15
星が丘中学校地域協議会	16
泉が丘中学校地域協議会	17
西原小学校地域協議会	18
瑞穂台小学校地域協議会	19

活動事例集について

本市の「魅力ある学校づくり地域協議会」は、国の「コミュニティ・スクール」の学校運営参画機能の一部を有し、保護者や地域住民が学校の課題や取組に対する意見交換を行うとともに、学校運営に反映するための協議を行う機能を備えています。

この機能に加え、本市の魅力ある学校づくり地域協議会では、その話し合いの結果を受けて、協議会が自らの実践的な活動に結び付ける機能を併せ持っています。具体的には、国の「地域学校協働本部」の機能を取り入れ、地域の教育力を生かした学校教育の充実に向けた活動を実践するものであり、学校教育を支援することを通して子どもの育ちを地域ぐるみで支えることを目的としています。また、携わる地域の大人も、大人同士のネットワークが形成され、結果として家庭・地域の教育力の向上に結びつきます。

更に、本市独自の機能として、家庭・地域の教育力向上に向け、研修会やフォーラムなどを通して、地域の大人が当事者意識を持ち自らも地域の子どもの育てる一員であることを自覚し、地域の子どもの育ちについて考え、地域ぐるみの子育てに参画するよう、家庭・地域に直接的に働きかける活動も実践する機能を併せ持っています。

国は、「地域学校協働本部」が〈①コーディネート機能、②多様な活動、③継続的な活動〉の3要素を備えていることが重要であるとしています。本市の魅力ある学校づくり地域協議会は、地域コーディネーターを中心としたコーディネート機能を備え、多様な地域団体等の協力を得ながら、学校支援活動に留まらず、児童の健全育成・安全確保活動や家庭・地域の教育力向上に係る活動など、多様かつ継続的な活動を実施してきました。これは、本市が、全国に誇れるものとなっています。

平成27年度に第1号目を発行しました「魅力ある学校づくり地域協議会活動事例集」は、本号が第5号目となります。今後も、それぞれの協議会において実践されている先進的な取組事例を、全ての協議会で共有し、各協議会が抱えている課題解決の一助とするため、継続して発行していきたいと考えております。

本書が、それぞれの地域における「魅力ある学校づくり地域協議会」のより良い活動につながり、地域全体で子どもを育む「地域の教育力」のさらなる向上にむけた参考となれば幸いです。

魅力ある学校づくり地域協議会って？

地域ぐるみの子育てに取り組んでいます。

- 「魅力ある学校づくり地域協議会」は、学校やPTA、自治会などの地域の団体、企業等が、一体となって地域の子どもを心豊かでたくましく育むために、ともに考え、協力して行動する組織です。
- すべての市立小・中学校区ごとに設立されており、学校を拠点に、地域の特性を生かした「学校教育の充実」と「家庭・地域の教育力向上」に向けた活動に取り組んでいます。

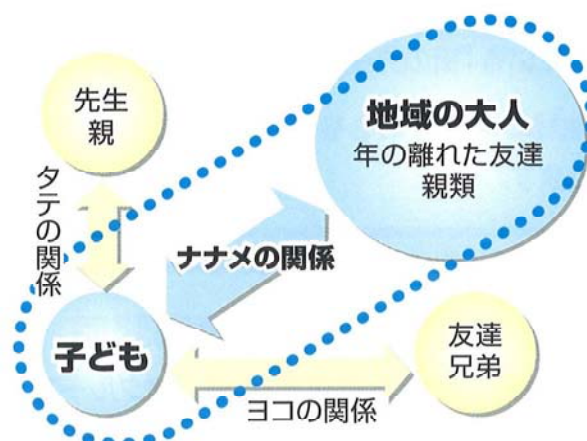


「魅力ある学校づくり地域協議会」でナナメの関係を作ろう。

- 近年、地域住民の連帯感が薄れ、ひと昔前には当たり前にあったはずの「社会全体で子どもを育む」機能が失われつつあり、子どもたちは限られた人間関係の中で育ち、その育ちに様々な問題を抱えているといわれています。
- 子どもの社会性を育むため、多様な人間関係の中での様々な体験活動や世の中の仕組みを学ぶ機会の充実が求められており、また、子どもたちが安心して過ごせる場所が必要とされています。
- 「魅力ある学校づくり地域協議会」では、地域社会における「ナナメの関係」を生かしながら、心豊かでたくましい宮っ子を育てていきます。

「ナナメの関係」

▶先生と生徒、親と子といった「タテの関係」や、同年代の友達、兄弟などの「ヨコの関係」ではない、地域の大人や年の離れた友達、親類などの緩やかな人間関係のこと。



「魅力ある学校づくり地域協議会」って何をやっているの？

- 「魅力ある学校づくり地域協議会」では、地域の大人が地域ぐるみで地域の子どもを育てるため、地域に根ざした活動に取り組んでいます。

【地域の教育力を生かした学校教育の支援】



地域のボランティアの力で
学校教育を充実させます。

【児童・生徒の安全を確保する活動の実施】



地域ぐるみで子どもを見守り、
育てます。

【活力ある学校をつくるための支援】



家庭や地域の意見を
学校運営に反映します。

【家庭・地域の教育力を高める活動の実施】



家庭・地域での子育てについて
理解を深め、考え、行動します。

私も何か協力できることはあるの？

- 「魅力ある学校づくり地域協議会」では、学校における様々な活動を支援していただけるボランティアの方を募集しています。
- 環境整備への支援……………除草・花壇作り、図書館の蔵書の補修、図書の整理 など
安全確保への支援……………校外学習の引率、登下校時の見守り など
教育活動への支援……………教科指導補助、ミシン操作や英語活動の補助、読み聞かせ
中学生対象の放課後や夏休み等における学習支援（地域未来塾） など

- ご参加いただける場合は、各「魅力ある学校づくり地域協議会」が発行する広報誌や募集チラシ、市ホームページ等をご覧になるか、各小中学校や教育委員会が募集している「街の先生」にご登録ください。

地域の中で、子どもを健やかに育てるため、皆さまのご参加とご協力をお願いいたします。

市ホームページ
はこちらから↓



活動事例

地域との交流行事「雀央サミット2019」

- 児童が地域の人たちに地域のためにできることを提案する、「雀央サミット」が開かれました。児童が、考えていることを自分たちの方から地域に発信することで、自主的に地域との関わりを深められるように、平成14年度から毎年実施しています。
- 今年度は、「雀宮中央小学校や地域をよりよくするための活動～地域で築こう、明るい笑顔～」をテーマに、代表児童68人がサミットに参加しました。
- サミット当日までに、自分たちの地域がよりよくなるための課題を地区ごとに考え、自分たちに何ができるかを積極的に話し合いました。
- できるだけ多くの地域の方々に声を掛け、サミット当日は、各地区の自治会長や育成会長などの代表者が約40名参加し、全体会の後、各地区に分かれて、児童から地域のためにできることを地域の方に提案し、話し合いを行いました。
- 地域の方から、児童への要望を伝えたり、課題への解決策を提案したりしながら、今後取り組む活動について話し合っていました。
- 後日、サミットに参加した児童が、各地域に分かれて報告会を開き、サミットで決まった今後実践していく活動について児童に伝えました。
- 夏休み以降、サミットで話し合った地域のためにできることを、各地区で児童が地域の方々と一緒に実現していきます。



全体会でサミット開会



各地区に分かれて話し合い



今後取り組む活動を決定

【学校の声】

自分が生活している地域をよりよくしていく意識を高めるとともに、児童が地域に働きかける機会が生まれる伝統的な交流行事になっています。

サミットで児童が地域の方々に提案するだけでなく、地域の方々の提案やアドバイスを聞くことで、活動内容がよりよく、より具体的になりました。また、一緒に活動内容を練り上げていくことで、児童が気付かなかった課題や解決策について考え合うことができました。

【地域協議会の声】

自治会長や育成会長をはじめ、各地区の代表の方が積極的に参加してくださいました。子どもたちと真剣に向き合い、活動の実現にご協力いただき、たいへん感謝しています。

この活動を通して、子どもたちが、よりよい地域にしていこうという気持ちを忘れずに生活し、地域のいろいろな行事にも積極的に参加してほしいと思います。

【いいね！】

学校と地域が連携した協働活動が毎年継続して実施されています。

自分たちの地域の課題を考え、提案した活動を実際に地域で実践し、活動を通して多くの地域の方々と触れ合っていくことで、自分は地域の一員であるという意識が高まり、地域への理解・関心が深まっています。



地域のボランティアがつくる「児童のための学校環境」

- 教員が授業を見合う「研究授業」に合わせて、学習支援ボランティアによる教室の見守り活動とミシン点検が実施されました。
- 見守り活動では、ボランティアが各教室を見回り、児童の活動を補助していました。児童は困ったことがあるとボランティアに手助けを求めるなど、温かな信頼関係が築かれていました。
- 小中学校の地域コーディネーター同士が頻繁に情報共有し、学校がどんな支援を必要としているかを常に考え、提案していきたいと考えているということでした。
- ミシンの点検では、ボランティアが「子どもたちがのびのび学ばお手伝いになればうれしい」と、点検のリストをチェックしながら1台1台丁寧に整備を行っていました。
- 他にも、職員室では学校側がボランティアにお願いしたいことを書き込めるボード（ボランティアお願いボード）があり、地域コーディネーターは、卒業式などのメインの学校行事のほか、学校の掲示物や、教材・教具の整備、清掃など幅広い分野で学校をサポートしています。この日も、ボランティアの方々によるカーテンの洗濯や修繕、送付物の封入などが行われていました。



研究授業中の見守り活動

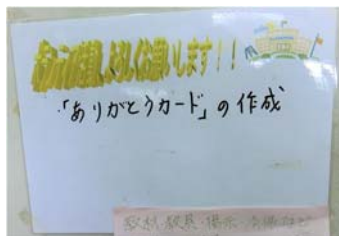


児童の使うミシンを整備



活動で気づいたことを共有！
（ボランティア室）

『ボランティアお願いボード』▶#



【学校の声】

地域コーディネーターが毎週ボランティア活動の調整を行ってくださっています。今回の見守り活動でも、呼びかけで多くの方が率先して力を貸してくださいました。日頃から職員でさえ気づかないような細かなところまで考えてくださり、「子どもたちが楽しく学校に通えるように」と学校を大切に思い、関わってくださっています。

【地域協議会の声】

ボランティア活動には無理のない範囲で参加してもらうことに気を付けています。また、子どもたちや先生方への支援はもちろん、活動を通して地域の大人同士の仲間作りができ、困ったときに相談しあえる場となることも大切にしています。今後はさらに、学校と地域コーディネーターがアドバイスをしあえる関係を築きながら、支援をしていきたいと思っています。

【いいね！】

ボランティアが見守りを行うことで、教員が研究授業に集中して参加できます。また、定期的な教具の整備により、児童が安全に使用できます。

地域の大人と児童との交流が自然となされており、ナナメの関係が築かれています。

ボランティア室が設置しており、活動のときに気付いたことや次回へのアイデアが共有できています。

「未来社会」を夢見る児童をはぐくむ豊央小科学工作教室

- 地域協議会主催の科学工作教室が、4～6年生の希望者14名を対象に平日の放課後に開催されました。この科学工作教室は、「地域の強みや人材を活かし、特色ある活動を」という地域協議会の発案により昨年度から実施され、今回で3回目となります。
- 今回は、教材キットを通して、電気の力でモーターが回転する仕組みを学びました。講師の下田さんが書画カメラを活用してわかりやすく説明を行うとともに、ボランティアの方も子どもたち自身に考えさせる声かけをしながら接する姿が印象的でした。
- 児童の保護者も参加・見学可能とすることで、安全面の向上や地域協議会活動の周知啓発、協力者の人材確保に繋がっています。
- 夏休み中の8月24日、PTAクリーン活動日に併せて、今回の工作教室に参加した児童が、モーター回転を発展・応用して創作したオリジナル作品の発表会（プレゼンテーション）を行いました。7月には参加しなかった児童も、発表を聞く側として参加し、友達の頑張りを称賛するとともに、次回への参加意欲を高めることができました。



書画カメラを活用した説明



保護者等による見守りや作業補助



夢中で作業に取り組む子どもたち



やったー！ モーター回転！！



成果発表会でのプレゼンの様子

【学校の声】

理科・科学好きな子、自分の思いをしっかりと伝えられる子に成長してほしいと、昨年から始まった取組で、将来どのような子どもたちが育ってくるのか、とても楽しみです。

協議会の皆様には学校安全支援、学校教育支援、地域活動支援等で、様々なご支援をいただき、とても感謝しております。

【地域協議会の声】

IoTの普及など社会が急激に変化していく現代において、子どもたちには、新しい目で見える力や創造力、さらには発表力も身につけてほしいと考えており、その一助として実施しています。今後も、地区内に大学等がある強みや豊富な人材を活かし、子どもたちや学校のために、協議会としてできることをしていきたいです。

【いいね！】

子どもたちに身につけさせたい力など、地域協議会と学校が目標を共有し、明確な趣旨のもと展開されている好事例です。

工作教室が単なる体験活動に留まらずに、参加児童やその他の児童にとってもその先に繋がる仕掛けが用意されているなど、他の協議会が活動を企画する上で参考になる視点です。



地域・大学と連携したイベント「生き物発見，大作戦！」

- 元々は今里地区でのイベントでしたが，学校や地域協議会との連携により，学区全体に拡大しました。
- 「今里水と緑を守るみんなの会」の方々が，用水路周辺の草刈りや道具などの準備，当日の注意・見守りなど，全般にわたってサポートしてくださっています。会長の手塚さんは子どもたちに，「生き物調査をとおして，身近にある豊かな自然について考えるきっかけになってくれればうれしい」と話していました。
- 子どもたちは，「深い場所に行かない」などの気を付けることを教わった後，網を借りて用水路で生き物を探しました。地域の方や保護者ボランティアの方が子どもたちを見守りながら，「草の下を探るといいよ」などとアドバイスしていました。
- 生き物を捕まえた後は，「今里集落センター」で観察会をしました。地域の方や宇都宮大学の学生の皆さんが生き物を種類ごとに分別。フナ，カワニナ，ゲンゴロウ，ミスカマキリ，カジカ……種類の多さは豊かな自然と田んぼがあってこそです。
- 宇大農学部准教授の先生が見つかった絶滅危惧種などを解説してくれました。また，学生からはスライドを使った説明があり，子どもたちは「田んぼは生き物の大切な場所」，「しかし，環境の変化で昔よりも生き物が減ってしまっている」ことなどを学びました。
- 「生き物を知るには，観察して特徴をつかんで，スケッチすることが大切」と教わった子どもたちは，自分やほかの人が捕まえた生き物を真剣にスケッチしていました。



注意すべきことはしっかり



子どもたちの調査を見守り



観察してスケッチが大切

【学校の声】

田植え・稲刈りや「町たんけん」の引率など，地域協議会や地域の方が子どもたちの学びに関わってくださっています。上河内は地域学校園としての活動も盛んで，学校・家庭・地域をむすぶ活動にも力を入れています。

地域協議会には「上西小未来応援クラブ」という別名があります。学区が広く，一方で児童数は年々減っていますが，地域の方が子どもたちの今と未来を温かく応援してくださっています。

【地域協議会の声】

上西小では，親子でコミュニケーションをとる活動や，5年生以上の子が参加する「りんごの皮むき選手権」など，子どもたちを巻き込んだイベントが多く実施され，子どもたちも積極的に参加しています。

水泳指導やミシン学習補助，地域の方が参加できるフリー参観などにも，地域協議会が携わっています。また，学校園としての連携も強く，地域のカレンダー発行など，広域の取り組みが充実しています。

【いいね！】

地域団体と連携し，子どもたちの体験を大切にしつつ，イベントの継続性や安全性を確保しています。

大学との連携で，生物多様性の詳しい知識を子どもたちが学べる機会を創出しています。

地域協議会に各自治会から多様な人員が参加しており，日常的にも長期的にも子どもたちを見守っています。



夏休みの恒例行事「校庭キャンプ」

- 毎年夏休み中に、学校の校庭や体育館を利用して、1泊2日のキャンプを実施しています。参加児童の内、1年生から3年生は親子での参加となります。今回は、児童20名、協議会委員とボランティアを合わせて30名、計50名での実施となりました。
- 地域協議会の委員が中心となり、保護者ボランティアと協力しながら運営していきます。国本西小学校を卒業した中学生も補助的なお手伝いをして参加しています。
- 学校で子どもたちの縦割り（異学年交流）の活動が盛んに行われていて、この活動でも、子どもたちは学年関係なく楽しく活動しています。また、保護者も協力的でフラットな関係で参加することができます。

1日目の活動

- ・昼食の流しそうめんの後、夕食の下ごしらえ
- ・おもしろ折り紙の製作活動（帽子、紙鉄砲、紙飛行機など）
- ・火起こし体験、炊飯体験、夕食のカレーの調理
- ・体育館にグループごとにテント張り
- ・ナイトラリー（チームごとにミッションをクリアしていきます。）
- ・花火の後、「自然災害時の対応」についての講話

2日目の活動

- ・朝食の後、PTAの親子奉仕作業に参加
- ・閉会式（参加児童が1人ずつ、キャンプの感想をみんなに伝えます。）



開会式で注意事項を確認



昼食は ひんやり流しそうめん



火起こし器で火起こし体験

【学校の声】

多くの活動があるので、地域協議会には、安全面に十分配慮し、熱中症対策としてあらかじめ各活動の実施条件を決めておくことなどをお願いしました。

子どもたちには、仲間や地域の方々と協力して活動していく中で、社会性や協調性を身に付けてほしいです。

地域協議会の委員をはじめ、多くの保護者の方に御協力いただき、子どもたちは、家庭ではなかなかできないような貴重な体験ができました。

【地域協議会の声】

夏休みの思い出となるように、子どもたちに楽しんでほしいという思いで計画しましたが、活動内容は天気によって左右されることもあり、あらゆる場面で参加者の安全の確保を考慮しながら活動していかなければなりません。

活動の中で、みんなで考え、協力し合うことで、協調性や創意工夫する力を身に付けてほしいと願っています。

【いいね！】

毎年実施している行事なので、昨年の経験を生かし、より安全に、また、活動内容が同じようなものにならないように計画されています。

活動内容が充実していて、多くのボランティアの協力があり、活動を通して、子どもたちと地域の人たちとのつながりが深まる行事となっています。



地域の高校と連携した「おやつ作り教室」

- 毎年、白楊高校と連携し、「おやつ作り教室」を開催しています。放課後に、白楊高校の食品科学科食品製造分会の生徒と先生が来校し、子どもたちと一緒に、家庭でも簡単に作れるおやつを調理します。参加対象は、2～6年生で、2・3年生は保護者と一緒に参加します。
- 作るおやつについては、地域協議会から、生ものをなるべく使わずに簡単にできるものでアレルギーを考慮してほしいとお願いし、白楊高校の生徒に考えていただきました。今回は、蒸しパンを作りました。
- 各テーブルに、白楊高校の生徒が入り、作り方や気を付けることなどを説明しながら、子どもたちと一緒に調理していきます。
- 初めのうちは、子どもたちも白楊高校の生徒も緊張した面持ちで交わす言葉も少なかったですが、調理が進むにつれて、会話も弾み、学校の生活について話したり、保護者の方から調理について質問したりするなど、和やかな雰囲気でした。
- できあがった蒸しパンに、白楊高校の生徒が栽培したイチゴとトマトから作ったジャムを添えて、いただきました。「おいしい」「家でも作ってみようかな」などの声が聞こえ、みんないい笑顔で活動を終わりました。
- 地域協議会の「子育て支援部会」が、この活動の企画・運営を行いました。ほかに「教育支援部会」と「地域活動推進部会」があり、それぞれ学校・家庭・地域で連携し、子どもたちのために様々な活動に携わっています。



高校生が自己紹介をして
いよいよスタートです



高校生が やさしく教えます



みんなで協力しながら作ります

【学校の声】

白楊高校との連携活動は、2年生の生活科の町探検や3年生の社会科校外学習・交流給食、夏休みのパソコン教室などがあり、「おやつ作り教室」も、白楊高校の特色を生かした連携活動となっています。

地域コーディネーターの方が、活動者である委員やボランティアの意見から、活動の課題や改善点について率直に学校に話してくださり、子どもたちのためによりよい活動が実施されています。

【地域協議会の声】

以前、食育に関わる活動を考えたときに、白楊高校が学校園の中にあり、食品について学んでいる生徒たちと何か連携できることがないか白楊高校に依頼をしてみたことで、この活動が始まりました。

毎年、たくさんの参加応募があり、子どもたちに、食を楽しみながら自分たちで作ることを体験してほしいので、今後も活動を継続していきたいです。

【いいね！】

「おやつ作り教室」だけではなく、授業の学習支援や夏休みの体験学習など、地域の教育資源を活用した活動が実践されていて、地域の高校生との交流が活発に行われています。

高校生にとっても、地域の一員として、地域の子どもたちを支える体験活動となっています。



保護者・地域住民が温かく見守る文化祭・合唱コンクール

- 10月26日（土）、文化祭・合唱コンクールが行われました。
今年度のスローガン『勇往邁進～新しい時代とともに突き進め～』にふさわしく、生徒一人一人が真剣に取り組む姿が見られました。
- 開会に先立ち、体育館ステージ上のスクリーンには、実行委員の生徒たちが出演した手作り動画が流れ、凝った演出が場の雰囲気を一気に盛り上げていました。今どきの中学生は凄いです。
- 校長先生の話、実行委員長あいさつの後、モザイクアートが披露されました。女子サッカーの鮫島選手など、本市出身の先輩方の姿が現れ、その視線は後輩である生徒を見守っているようでした。
- 合唱コンクールでは、緊張感が漂う中、各学年3クラスずつ、見事な合唱が行われました。各クラスの個性が感じられるとともに、これまでの努力や絆の強さが伝わってきて、審査員として関わった地域協議会の皆様も真剣な表情で臨んでいました。
- 保護者や地域住民が多く集まる場を活用して、地域協議会の発案により、今年度から新たに学校園単位で取り組んだ「あいさつ・ていねいな言葉づかい」に係る標語等の掲示がされていました。



実行委員作成の動画披露



大きなモザイクアート



心に響く合唱



地域協議会委員が審査員



あいさつ標語の掲示

【学校の声】

お陰様で令和元年度の文化祭は生徒たちが主体的に企画・運営し、大いに盛り上がりました。今年も地域協議会委員の方々には合唱コンクールの審査員として参加していただきありがとうございました。これからも上河内中学校の教育活動にご協力・ご支援をいただければ教職員一同嬉しく思います。

【地域協議会の声】

協議会活動をしていて嬉しい瞬間は、学校敷地外で会ったときでも、子どもたちが気持ちよく挨拶をしてくれるときです。我が子以外の子と接する機会は貴重であり、大切にしています。

今後も、多くの方に学校に来ていただく機会を設け、協議会委員として学校と地域をつなぐ役割を果たしていきたいです。

【いいね！】

行事を通して、日頃から生徒たちが落ち着いたよい雰囲気の中、学校生活を送っていることが伺えました。

あいさつ標語の取組など2人の地域コーディネーターを中心に、地域学校園の連携が図られており、地域ぐるみで育てたい子どもの姿を共有している好事例です。



ボランティアサークル「たぶリエっぺ」による学校支援活動

- 横川東小学校地域協議会のボランティアサークル「たぶリエっぺ」は、2012年の発足以降、昇降口の飾りつけ、オルガンカバーや教材の作成、階段の英単語表示、バースデーカード作りなど、様々な学校支援活動を行っています。
- サークルのメンバーは20名ほど。“できる時に、できる事を、できる範囲で”の誘い文句でメンバーを募集し、当初は児童の保護者だけの集まりでしたが、現在は、お子様が卒業後もサークルに残り活動されている「先輩保護者」の方が半数ほどいらっしゃいます。メンバーにとっては、お子様の中学校進学への心配事なども含め、様々な情報交換ができる場となっているそうです。
- サークル名の「たぶリエっぺ」は、フランス語で「エプロン」を意味する「たぶリエ」に、栃木らしく（そして横東小らしく）「ぺ」を付けたもの。お揃いのオレンジ色のエプロンを身に着け、和気あいあいと活動しています。
- この日は、11月9日（土）に行われる「横東秋まつり」で販売する「うちわ」や「キーホルダー」、「ガーランド」などのグッズを、10名ほどが集まり作成しました。中には、紐の色や飾りの模様など、自分で好きなものを選んで組み合わせることができるよう、工夫されているものもあるそうです。
- 作成したグッズには、横川東小学校のキャラクターである「よことん」がデザインされています。「よことん」は、秋まつり等の行事で登場（着ぐるみ）するほか、校内の様々な掲示物やバースデーカードなどでも活躍しています。



楽しい活動風景



様々な支援をしています。



↑
よことん

←バースデーカード

【学校の声】

季節に合わせたきれいな掲示物のおかげで、薄暗い昇降口が明るい雰囲気になり、大変助かっています。また、階段の一段一段に英単語を貼っていただいて、階段を上ることに意味を感じます。子どもたちも、気づかぬうちに得ているものがたくさんあるのではないのでしょうか。

このように、自分たちの学校生活が、多くの人たちに支えられていることを、子どもたちに伝えていかなければならない、と思っています。

【地域協議会の声】

「たぶリエっぺ」のほかにも、協議会では、スクールガードや読み聞かせなど、様々な活動していますが、どの活動も、子どもたちが喜ぶことを、子どもたちの笑顔をつくるために行っています。

これからも、子どもたちを中心に、私たちに何ができるかを考え、学校・地域・PTAなどが一体となって、できることをやっていきます。

【いいね！】

学校内の掲示物や、教材、オルガンカバー、行事用のテーブルクロスまで、様々なものが手作りされ、しかも、工夫が凝らされた素敵なものばかりでした。子どもたちへの愛情が感じ取れます。

ボランティアの皆さんが、本当に楽しそうで、笑顔と笑い声溢れる活動風景が印象的でした。



中学生もいっしょに「きらりん あいさつ運動」



校庭から校門、体育館前まで、岡北っ子と古里中の生徒が並んであいさつ運動

- 岡本北小学校では、水曜日の朝に「あいさつ運動」を行っています。校門前や昇降口前に、クラスから推薦された「あいさつ殿堂入り」の子や、各委員会の委員となった子が並び、登校する皆さんにあいさつをします。地域協議会では、あいさつ運動用に岡北小のゆるキャラ「きらりん」が描かれた「のぼり」を製作しました。
- 例年、春と秋の2回、この「あいさつ運動」を岡本北小卒業生である古里中学校の生徒と一緒にいきます。
- この取材の日には、中学生がおおよそ120名も集まりました。また、地域協議会からの声掛けで、サギソウの妖精「サキちゃん」と「ソウくん」も駆けつけてくれました。
- 大勢の先輩方がお出迎えしてくれたので、登校してくる岡北っ子たちはドキドキして少しだけあいさつの声が小さくなった子もいたようですが、サキちゃんとソウくんを見て笑顔になり、中学生に交ざって笑顔であいさつをしている様子も見られました。登校してくる子からも迎える子からも、積極的な「おはようございます！」のあいさつがたくさん聞こえました。



元気に登校する小学生に、のぼりを持った中学生があいさつ



河内地区まちづくり協議会のマスコット、サキちゃんとソウくんが魅力協ビブスを着用してあいさつ運動に参加

【学校の声】

本校は、家庭や地域の方々も巻き込んだ様々な取組により「あいさつがあふれる学校」を目指しています。子どもたちも、あいさつがよくなる校風を自負しています。

また、日頃から地域協議会の皆様を中心に、様々な方が子どもたちの登下校を見守ってくださっていたり、コーディネーターの尽力で学習等への支援体制が整っていたりすることなどが、子どもたちの健やかな成長につながっています。

【地域協議会の声】

学区内には、昔からある自治会も新しくできた自治会もありますが、協議会には現在すべての自治会長さんに参加いただいております。地域と学校との連携により、子どもたちを健やかに育てるための輪が広がりつつあります。

無理なく活動できるよう、独自の活動ばかりではなく、学校行事や地域のイベントに御協力させていただく形もよく取ります。子どもたちの笑顔と、地域の人との温かいつながりが活動の励みになっています。

【いいね！】

小学生と中学生の自然な笑顔が地域にも元気をくれるようでした。

あいさつ運動用ののぼりの購入や、マスコットのビブスの着用など、活動に合わせた魅力協の周知をありがとうございます。

学校や地域の方々、自治会、他団体と連携して、大人にも負担をかけないように心遣いをされています。

収穫祭で焼き芋作り ～「みんなで作ったものを、みんなで食べる」体験活動を支援～

- 10年以上も続く毎年恒例の収穫祭。地域の協力の下実施した全校児童での苗植えと芋掘りだけでなく、サツマイモを焼くために必要な枯れ枝や落ち葉集めは1年生から4年生、地域の方や保護者ボランティアによる当日の準備など、学校と地域が協力して収穫祭の準備を進めてきました。
- サツマイモを育てることになった経緯は、『子どもたちに、みんなで作ったものを、みんなで食べる』体験をさせたいとの思いを、地域と学校とで相談した結果、サツマイモになったそうです。
- 焼き芋は、縦割り班ごとにドラム缶コンロで作ります。各班には、班担当の先生以外に、地域の方や保護者ボランティアがサポートに割り振られます。内容は、火などの安全管理や活動補助です。上級生はこれまでの経験を生かし手際よく作業しながら下級生の面倒を見る姿が見られ、参加した地域の方から、上級生としての立派な姿に感心しているとの感想が寄せられました。
- 焼き芋ができるまで、児童は、児童会企画による校内ウォークラリーを縦割り班で楽しみました。その間、各班のボランティアの方は火の見守りをしました。焼き上がりを期待する児童のために、火加減や焼き加減をこまめに確認しながらも、ボランティア同士のコミュニケーションの場にもなっていました。
- 今年もおいしい焼き芋ができあがり、児童は大喜びでした。地域の方の思いどおり、「みんなで作って、みんなで“おいしく”食べる」ことができた収穫祭となりました。



焼き芋を作るのは、焼き芋専用“手作り”ドラム缶コンロです。炎が収まったら、準備したサツマイモを置き、落ち葉をかぶせて、更に焼きます。



「火を囲む」と自然と距離が縮まり、不思議と会話が弾みます。学校行事が交流の場となる、素敵な光景です。



焼き芋を食べた児童の感想
「アツアツだったけど、すっごく、おいしい」

【学校の声】

収穫祭は、広い校庭を利用して、煙が校庭いっぱい立ち上る中、盛大に行われる本校ならではの行事です。大規模校の本校においては、児童一人一人の活動を支援するために地域や保護者の協力は欠かせません。地域コーディネーターの呼び掛けに応じて、たくさんの方が農園の整備、サツマイモの苗植えから収穫祭の実施に至るまで、子どもたちのために熱心に作業してくださっています。

【地域協議会の声】

地域協議会として、今後は、新たな事業というよりも、今の事業を継続し、手法等をスムーズに次の世代へ引き継げるように考えています。また、同じ地区に新設校ができ、この清原中央小の子どもたちの中にも通学する子がいるので、新設校との連携の在り方などを検討しながら、子どもたちのために活動していきたいと考えています。

【いいね！】

事前準備から地域と学校との連携が図られており、当日においても、児童たちの縦のつながりに加え、地域や保護者も巻き込んだ異世代間交流の場や食育における「共食」が実現できている大変有意義な取組となっています。

※共食とは、「一緒に食べる」ことだけでなく、「おいしかったね」などと話し合うことも含みます。



花いっぱい運動と給食試食会

◇花いっぱい運動◇

- 地域の人と生徒と一緒に花植えを行う、「花いっぱい運動」が行われました。この活動は、生徒が花を育てる楽しみを知るきっかけとなっています。
- 活動中、地域の方が積極的に生徒に「きれいにできたね」と声を掛けたり、上手な植え方のコツを教えたりしており、和気あいあいと行われました。
- また、地域コーディネーターの方々も活動するうえで、事前に学校側の要望や予定を確認し、担当教諭とのやり取りを大切にしてくださっています。小さな不安や疑問点も、相談しながら解決することを心掛けています。これにより、学校との強固な結びつきが築けており、安心して活動に取り組んでいます。



「花いっぱい運動」みんなで頑張りました！

◆給食試食会と学校の様子◆

- 午後は、地域協議会の委員が一堂に会し、各クラスの給食配膳や生徒の様子を参観しました。
- その後、給食試食会が開かれ、学校栄養士から、給食の献立は地域で育った旬の食材や新米を用いていることや、育ち盛りの中学生に必要なエネルギー量や栄養バランスを考えて作られていることなどの説明がありました。
- また、地域協議会では、横川地域学園の共通スローガンのひとつとして「あいさつ」を定めており、年々、生徒たちのあいさつへの意識が高まってきています。この日も、地域の人と生徒が元気にあいさつを交わしていました。



熱心に取り組めます



美味しい給食に感謝！

【学校の声】

地域協議会は、より良い学校づくりに向けて真剣に考えてくださっており、大変心強い存在です。花いっぱい運動も、地域の方のご協力のもと、生徒たちが豊かな心をもつ学びの一助となればという思いで続けております。今後も地域の方の様々なご支援を、生徒たちの更なる成長へ繋げていきたいと思ひます。

【地域協議会の声】

校内外を問わず、地域の人に率先してあいさつができる子どもたちが多く、明るい地域です。

活動において、子どもたちが過ごしやすい学校づくりを目指すため、「親としての目線」を大切にしています。併せて、ボランティアに来てくださった保護者のための子育ての情報交換や相談の場づくりも意識しています。引き続き、地域全体で子どもたちを温かく見守り、支えていきたいです。

【いいね！】

横川地域学校園の共通スローガンのもと、教師や生徒が自然にあいさつを交わしており、互いに親しみや優しさを感じさせる環境が形成されています。

花植えなどの活動を通して、地域の方と生徒たちが気軽に話せる交流の場づくりに力を入れており、ナナメの関係づくりができています。



ボランティアによる生徒会専門委員会の活動支援

- この日の放課後は、美化委員会の活動と、図書委員会の活動があり、それぞれ、ボランティアの皆様が支援を行いました。
- 美化委員会は、校舎南側の花壇にパンジーの苗を植え付けました。ボランティアの皆様から手際よく指示が出て、生徒たちもテキパキと積極的に作業をしていました。この日植えたパンジーは、これから冬を越え、卒業式まで学校を彩ってくれます。
- 美化委員会の活動を支援したボランティアの皆様は、地域協議会のコーディネーターさんの呼び掛けで集まりました。自治会などにも声をかけ、地域のグループホームの入居者の方が支援に来て下さったこともあったそうです。
- 図書委員会の活動では、「ブックトーク」の練習をしました。まず、ボランティアの方のお手本を見て、どんな紹介の仕方が効果的かを学びました。図書委員会の委員長は、「原稿を見ずに話しているのに、テーマや構成がちゃんとできていてすごいと思った。外国の本と日本の本で話の系統が違うことなど、とても分かりやすかった。」と話してくれました。
- 次に、図書委員の生徒がクラスに戻って「ブックトーク」を行うための、準備・練習を行いました。とても丁寧に紹介文や絵を書き、発表の練習もしました。発表の仕方などについて、ボランティアさんからのアドバイスを、みんな真剣に聞いていました。
- この日は学校支援ボランティアの方がメインで支援をしていましたが、本の整備やPOP作りなどを行う図書ボランティアの方たちも定期的に活動されているそうです。



美化委員会の花苗植え



ブックトークの素晴らしいお手本に感激

【学校の声】

以前本校の保護者だった地域の方々から、「挨拶がよくできたり、はきはきと受け答えができたりする星中の生徒さんの良さは、当時も今も変わらないですね」というお褒めの言葉をいただき、本校の教職員としてもうれしい限りです。

今後も、星中の子どもたちのすばらしさを広くPRできる機会を設け、地域に愛される星中生を育てていきたいと考えます。

【地域協議会の声】

生徒たちは、自分たちで考えて行動することができるので、私たちは、そのお手伝いとして、少し背中を押してあげるだけです。積極的に委員会活動に取り組む姿は、とても頼もしく感じます。

協議会や地域には、様々な特技を持った方がいます。その特技を生かし、先生方と協力しながら、生徒たちのため活動していきたいと思ひます。

【いいね！】

生徒たちは、支援してくれる協議会の方たちやボランティアの皆様をお手本として、一生懸命、その技術や考え方を吸収し、どんどん成長していていることが、短い時間の中でも感じ取ることができました。

先生たちだけでなく、様々な人が生徒たちの学校生活を支え、関わることの大切さを、改めて実感しました。



小・中合同による越戸川せせらぎ通り・駅東公園の清掃美化活動

- 秋も深まり、枯れ葉舞う季節となった11月下旬の寒い中、越戸川せせらぎ通りと駅東公園で、泉が丘中学校と泉が丘小学校、今泉小学校による小中一貫合同清掃美化活動が行われました。
- 20年以上続くこの清掃美化活動は、毎年、7月にせせらぎ通りを、11月に駅東公園の清掃を行っていましたが、今年度は初めて同日開催で行われました。泉が丘中1年生は半数ずつに分かれ、せせらぎ通りを泉が丘小6年生と、駅東公園を今泉小6年生と一緒に清掃活動を行いました。
- 小学生と中学生が交ざり合ったグループでチームを組み、保護者の方や地域の方も一緒に清掃活動を行います。雨に湿った落ち葉が掃きづらく、苦戦しながらも、ほうきで集めていき、落ち葉の山を作ってごみ袋に入れていきます。ボランティアで参加した保護者の方々や地域の方々とも一緒に、交流しながら活動をしていました。
- 「中学生になると『中間テスト』っていうのがあって大変なんだよ」間もなく中学校に上がる小学生たちの期待や不安に答えるような交流も見られました。
- 最後に閉会式を行い、それぞれの場所で各学校長からの挨拶が行われ、今泉小の校長先生からは、「合同清掃活動を通して、地域に対する思いを深め、愛着を持って欲しい」という話に児童・生徒たちは真剣な表情で耳を傾けていました。
- 閉会式では、進行を中学生が行い、先輩らしいスムーズな司会進行と、最後に小学生に向けて「みなさんの入学を楽しみにしています」と挨拶があり、頼もしい先輩が待つ中学校への入学が楽しみになるような活動となりました。



小中合同で清掃スタート！



それぞれチームで協力！



地域の方とも交流しながら…



たくさん集まりました！

【学校の声】

清掃活動を共同で行うことにより、小学生と中学生の交流の機会になっています。また、大変な作業をすることで、普段利用している場所が、地域の方々の協力により、きれいに保たれていることを知る良い機会にもなっています。

今後も地域に対する思いを深めて、自分たちが住んでいる地域に愛着を持って過ごして欲しいです。

【地域協議会の声】

濡れた落ち葉は滑ってしまい、公園等を通る自転車や地域の方が散歩をする際、危険なこともあります。この時期に、子どもたちの手を借りて、一斉に清掃することで、1時間程度できれいになり、大変助かります。また、小中学生が交流をしている様子が見られ、微笑ましく思っています。

【いいね！】

小中学生でチームを組むことで自然と交流が生まれ、また、地域の方々とも一緒に清掃活動を行うことで、共に達成感を味わうことができる良い活動です。小中の先生との交流も図られており、中1ギャップの解消にもなっていると思われます。



「西原の先輩に学ぼう」のコーディネート

- 西原小6年生の総合的な学習の時間「西原の先輩に学ぼう」では職場体験をする機会があり、協力いただける事業所等を、西原小の地域協議会である「サポーター会議」が毎年探しています。これまで協力いただいた事業所や候補となる新規事業所等をお願いし、今年は16の事業者等にご協力いただけました。また、あわせて保護者ボランティアもサポーター会議が募集し、当日の見守りに付いていただいています。
- 7月ごろの「ようこそ先輩」の授業においても、先輩役の大人をサポーター会議が調整して集めており、今年は8名の先輩方に仕事の話をしていただいたうえで、子どもたちからの質問に答えていただきました。この「ようこそ先輩」で働くことのイメージをつかみ、11月の職場体験に入りやすくするねらいがあります。
- 職場体験の当日、子どもたちは自分で選んだそれぞれの体験先に向かいました。体験先では実際の職場の中を見て回り、働いている人から説明を聞きます。子どもたちは大人たちが真剣に働いている姿や、普段は見られないバックヤードなどを見て、働くことへの理解を深めていました。体験先によっては、制服を用意してくださったり、売り物を作るのを手伝わせてくださったりするところもありました。作業を任せられると、子どもたちも真剣になって取り組んでいました。



駅の仕事を
裏側から見られて感激！



お花のアレンジメントを
実体験



買っているときと
違う目線で
棚に並んだ商品の
整理



ユニフォームを借りて、
ドキドキの食品づくり

【学校の声】

学校経営の理念にある「地域に開かれた信頼される地域の学校づくり」の具現化を図るため、学校と地域が緊密に連携・協力しています。

歴史的・文化的な史跡に囲まれ、豊富な地域の人材に恵まれた強みを生かしながら、地域協議会（サポーター会議）の皆様にも全面的な支援を受けながら取り組んでいます。今回紹介した活動は、地域に点在する多くの事業所のご協力のおかげであり、本校の特色になっています。

【地域協議会の声】

「西原大家族」をスローガンに、子どもたちが元気にたくましく成長できるよう地域一丸となって活動しています。

地域の人たちや以前のコーディネーターさんも気にかけてくださっているおかげで、職場体験をはじめとするたくさんの活動ができています。今後は、今の代から次の代へ、スムーズに引き継げるように工夫していきたいと考えています。

【いいね！】

○ たくさんの人が関わっており、子どもたちとのナナメの関係を強固に築いています。

○ サポーター会議が地域の要となって、地域の教育力を盛り上げています。イベントや見守りなどが無理なく続けられるよう、さまざまな工夫もしています。



学校と地域の方々が築き上げた「PTA 瑞台祭り」

- 瑞穂台小学校で「PTA 瑞台まつり」が開催されました。今年は、創立40周年を迎えた瑞穂台小学校を祝う記念イベントも企画され、バルーンリリースや大道芸人のショーなどもあり、大変な賑わいを見せました。
- これまで30年以上も続けられてきたこのお祭りでは、学校とPTA、地域協議会との共催で実施されており、多くの地域の方々がボランティアとして積極的に関わっています。
- 地域協議会の出展では、「むかし遊び」として、ベーゴマや糸巻き競争体験が行われました。糸巻き競争は、瑞穂台地域のスポーツ大会で実際に取り入れられている競技で、「子どもたちにもぜひこの楽しさを知ってもらいたい」と今年初めて取り入れました。長さ6メートルの糸巻きを手に、「糸巻き 師範」を目指して、子どもたちは何度も楽しそうに挑戦していました。
- こうしたむかし遊びの道具は、なるべくボランティアの方に負担をかけず参加していただけるよう、学校の教材を活用しているものもあります。中には、昔のおもちゃを手作りしてくださるボランティアの方もおり、地域のむかし遊び名人たちが子どもたちへむかし遊びのコツや面白さを伝えています。
- 「PTA 瑞台まつり」は、皆の拠り所となる温かい場所をつくろう、という地域の人たちの強い思いから生まれました。1年を通して、瑞穂台小学校の地域では定期的に季節行事が行われ、子どもからご年配の方まで幅広い年代が集まって地域を盛り上げています。地域の新しき伝統となるよう、今後も継続していきます。



初めてのベーゴマ



糸巻き競争 上手に巻けるかな？



↑糸巻き認定書
【師範】！



地域協議会の
「のぼり」→

【学校の声】

本校は、地域ぐるみの教育活動や行事が充実しており、学校・家庭・地域が一体となって「心のふるさと」づくりを推進してきた歴史があります。

子どもの遊びが外遊びからゲームにシフトしつつある今、「むかし遊び」を、地域協議会の皆様と子どもたちが言葉を交わしながら一緒に楽しむ姿がとても温かかったです。

顔と顔、心と心がつながって、笑顔あふれる「わがまち瑞穂台」にあるという本校の幸せに感謝しております。

【地域協議会の声】

瑞穂台地域では、協議会の現行委員だけでなく、OBやその知人、PTAなど、地域で育まれた人と人とのつながりを生かして活動を広げてきました。

今回のPTA 瑞台まつりも多くのボランティアの方のお力をお借りし、活気あふれる活動となりました。子どもたちが、地域の大人たちと交流しながら、むかし遊びにも親しみをもってもらえたらうれしいです。

【いいね！】

地域協議会と学校、PTAが連携し、地域を盛り上げていきたいという熱意が表れています。

むかし遊びの活動体験を通して、子どもたちの成長を見守る「地域の人の輪」ができています。

活動の際は、積極的にのぼりやビブスを活用し、地域協議会を多くの人に知ってもらおうきっかけづくりにつながられています。



社会総ぐるみによる人づくりの「合言葉」

『育もう 地域の愛で 子どもの未来』

～大人が子どもの手本となり，みんなで人間力を高めます～

「魅力ある学校づくり地域協議会」 活動事例集 第5号

発行：令和2年2月	宇都宮市教育委員会事務局生涯学習課
〒320-8540	宇都宮市旭1丁目1番5号 宇都宮市役所
TEL	028-632-2674
FAX	028-632-2675
E-mail	u4606@city.utsunomiya.tochigi.jp
